

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自ら学ぶ意欲に満ち、豊かに関わり合い、たくましく生きる子」～かがやき ひびきあい はばたく子～
 【知】学びの基礎・基本を確実に身につけ、粘り強く、自ら進んで課題を解決する子を育てます。
 【徳】自他を尊重し互いの良さを認め、自分の行動に責任をもてる規範意識やルールを大切にすることを育てます。
 【体】自分や他者の生命を大切にし、健康な心と体を自ら積極的に作るようとする子を育てます。
 【公】まちの一員として地域社会の中で共に学び合い、自分の役割と責任を理解して社会に貢献する子を育てます。
 【関】コミュニケーション能力を高め、周りの人々と良好な関係作りのできる子を育てます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

○学びを通して、自己肯定感を高め、自ら学ぼうとする態度や意識
 ○人と豊かに関わるために必要な社会性やコミュニケーション能力
 ○粘り強く取り組み、たくましい未来を創造する力

具体化した資質・能力

- 問題解決能力
- 人権感覚
- 自尊感情
- 規範意識
- コミュニケーション能力

中期取組目標

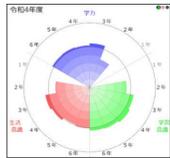
○学校教育目標の実現とともに、子どもにとって「学校が安心して楽しく過ごせる場所」となるように次の取組目標の具現化に努めます。
 ・授業づくりの工夫・改善を通して、基礎・基本となる学習内容の定着を図るとともに、問題解決能力を育てます。
 ・自分も友だちも大切にできる人権感覚を身につけ、相手を思いやり、自他を尊重する心情や態度を育てます。
 ・「吉原小スタンダード」の定着を通して、基本的な生活習慣を身につけるとともに規範意識を育てます。
 ・積極的に学校の情報を発信して、保護者・地域の信頼を得られる関係づくりに努めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①各教科、基礎・基本となる学習内容を確実に身につけます。 ②問題解決に粘り強く取り組み、他者との関わりの中で考えを広げ、深めることができる子を育てます。 ・授業研究会 ・研修会 ・よしはらタイム ・授業時間の弾力的運用
担当	教務部・授業改善・研修部

学力向上に関わる本校の状況

○成果
 学力状況調査の結果から、本校児童の学力は、どの学年も市の平均とほぼ同等の結果となった。これは、学習の問題づくりを工夫すること、基本的な学習の流れを理解できるように構造的に授業を展開することで、子どもが見通しをもって学習に取り組めるようになったことにより、子どもが主体的に学習に取り組めるようになったことの結果であると考えられる。また、4年以上の学習については教科担任制の効果が出ていることで、全体的に学力が高まっていると考えられる。しかし、特定の学力、学習意識がとて低く、生活意識も低い状況にある。



○課題と学校としての具体的取組
 一昨年度までとは違い、学校全体としての教科についても学力、学習意識が向上した。また、生活意識の向上が見られた。しかしながら、横浜市の平均ほどの数値となっている。本校では、特定の学年において、学力、学習意識、生活意識がとて低い状況にある。平均的な数値を高めること、特定の学年が低い状況から高めることは特定の教科に限定した対策ではなく、全体的なアプローチによる指導の底上げを欠かすことはできないと考えられる。各学習内容を確実に身につけることや問題解決に取り組む姿勢を向上させることが必要であると考えられる。また、40分を1単位時間として集中して学ぶことができる指導や弾力的な授業時間を活用して学ぶことで効果的な授業を行う必要がある。

今年度の目標

①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、活用能力を高める。各教科・領域の指導方法を研究し、授業力の向上に努める。②子どもが主体的に問題解決に取り組む、他者との協働のなかで自分の考えを広げ、深めることができる児童を育てていく取り組みについて保護者の80%以上が肯定的であるという実感ができるように働きかける。理解が得られなかったことに対しては要因を分析し、改善の方法を模索していく。

目標を実現するための具体的行動プラン

- | 上半期 | 下半期 |
|--|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> ○低学年 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習姿勢を身につけることができるようにする。 ・子どもに提示する教材を工夫し、学校や学習に楽しさを感じ、意欲的に学ぼうとする態度を育てるようにする。 ・最後まで粘り強く、学習をはじめとする活動に取り組むことができるようにする。 ○中学年 <ul style="list-style-type: none"> ・学習する内容を定着できるようにするために、家庭学習を習慣化できるようにする。 ・集団で問題の解決に向かって取り組む楽しさを感じられるようにする。 ○高学年 <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてをたてることやめあての大切さを理解し、問題を解決する過程を楽しむことができるようにする。 ・集団で問題の解決に向かって取り組み、他者とかかわることのよさを実感できるようにする。 ○個別支援級 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の中で今まで学習したことや経験したことを思い出し、学習の中でそれを実践できるようにする。 ・自分の気持ちや考えを様々な手法で相手に伝えることができるようにする。 | |

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
安心できる居場所づくり	①児童一人ひとりに自尊感情を育てるとともに、友達を大切にできる人権感覚を身につけます。 ②特別支援教育コーディネーターが中心となり、特別な支援や配慮が必要な児童をチームで支援します。 ③児童に丁寧に寄り添い、児童の課題や困り感の解決、問題行動の未然防止・早期発見・早期解決に組織的に取り組みます。 ④代表委員会を活用して、よりよい学校づくりを児童が中心となって考えます。 ・人権週間 ・外部機関との連携 ・チームでの児童支援 ・生活アンケート ・代表委員会
担当	児童指導・特別支援部・特活部

豊かな心に関わる本校の状況

本校の児童は、物事に一生懸命取り組み、やり遂げることの喜びを素直に実感することができる。また、「あいさつを自分からする」という意識も、ずいぶん育ってきた。あいさつを通して人と関わることの大切さや良好なコミュニケーションをとることのよさにも気づき始めているようだ。
 一方で、「自分のことが好きだ」ということに関しては、自分に自信をもてない児童が少なからずいて、自己肯定感が低いことが課題である。「自分の好きなところはどこか」などの質問への応答も悩んでしまう実態がある。
 また、「友達や家族との約束を守っている」とことに関しては、相手に配慮して行動しようという気持ちはあるものの、コミュニケーションスキルがまだまだ十分ではないことから、トラブルに発展することもある。

今年度の目標

①日常生活や体験活動を通して児童間の豊かな関係づくりができるようにを図る。人との関わりを重視して自己肯定感、自己有用感を育てる。②自然と挨拶ができる児童になるよう、児童が主体的に取り組むあいさつ運動を展開する。また、道徳・人権教育を通して心の教育を推進する。

目標を実現するための具体的行動プラン

- | 上半期 | 下半期 |
|---|-----|
| <p>指針1「日常生活での児童同士のかかわり方のスキル向上授業」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの良さを教師が見本となり示し、その良さを児童に伝えていく。 ・人のかかわり方のスキルや良好な人間関係の構築を意図した授業の展開やスキルトレーニングを行う。 ・発達段階に応じたスキル取得のために年間を通して、学年で統一した指導を意識する。 <p>指針2「体験活動の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠足・宿泊体験学習を通して、児童が主体的に活動を計画し、実行できるようにするとともに、集団の一員としての態度や考え方を育てる。 ・ふれあい花壇の整備をボランティアとともにに行い、自然を愛する心や、持続可能な社会を構築する一員としての意識や態度を育てる。 <p>指針3「特別の教科 道徳や」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科を引き続き充実させ、児童が互いの意見を聞き合い、自己をふりかえりながら道徳的価値を理解して実生活に生かせるよう、授業づくりを行う。 | |

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①すべての教育活動を通して、児童に基本的な生活習慣や食習慣が身につくよう指導します。 ②児童が楽しく、意欲的に運動に取り組めるように体育科学習や環境整備の工夫に努めます。 ・スタンダード ・食育指導 ・体育科学習 ・運動集会 ・保健週間
担当	体育部・保健・栄養部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)体育・健康に関する実態
 ○毎年実施している新体力テストの結果は、全体的に全国平均、市平均に比べ水準を下回っており、学年によっては技能の遅れが見られる。
 ○給食について、主食・おかずの残量は減少しており、好き嫌いがなく何でも食べようという意欲が高い傾向にある。一方で、牛乳の残量は6%前後を推移しており、牛乳嫌いをなくすことが課題である。
 ○学区周辺が幹線道路のため、地域に外遊びができる空間が少ないためか、遊びの種類が少ない。
 ○野球、サッカー、ダンスなど、地域のスポーツクラブが盛んで、多くの児童が所属している。

(2)体力の概要と要因の分析
 ○新体力テストの結果から、ほとんどの項目が全国平均、市平均と同等の記録が出ているが、握力やソフトボール投げ、シャトルランについては、平均を下回る学年が多い。投げる能力については、運動経験の少なさが影響しているものと思われる。ふだんの運動の様子から、授業中や休み時間の遊び方の指導につなげていけるようにしたい。

(3)建替えに伴い、運動不足が懸念される
 10月以降、グラウンドの使用できる場所が狭くなり、体育の授業や休み時間などに大きく影響がある。

今年度の目標

子どもの体育・健康面の姿から課題を明確にし、体育科の授業を中心としながら、教育活動全体を通して健やかな体の育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

- | 上半期 | 下半期 |
|---|-----|
| <ul style="list-style-type: none"> ○栄養教諭による食育 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の給食に関するばくばく日記を使った継続的な食育 ・地場野菜や季節のくだもの、セレクト給食の実施により児童の食への関心を高める ・給食委員会で残食を減らすための活動を企画する ○保健委員会を中心とした保健週間や生活カレンダーの実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・病気を予防し、元気な心身をつくるためには、生活習慣を整えることが大切であると感じられるようにする。 ・夏休みと冬休みに生活カレンダーを実施して、生活習慣を振り返る機会を設ける。 ○主体的に運動できる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・体育科学習の充実を図り、運動することの楽しさを味わえるようにする。 ・体育委員会で、体育的なイベントを企画・運営し、運動意欲の向上の機会を設ける。 | |